

東日本電協定期委員会を開催する

東日本電気協議会は11月28日13

時より、第28回定期委員会を東京地本会議室において委員9名、役員14名が出席、来賓として東日本本部から樋口執行委員が出席して井上副議長の司会で開会しました。議長には東京地電協の伏見委員が就任し、宿直制度が導入されているが、東労組の若手とは泊まらせない差別がいまだにある。S-Tネットという新設備や宿直制度の導入、また若手の技術継承が進まない中で、今までの仕事が出来ない状況とパソコンを扱えば仕事になっていると思う実態があり、慢性的な要員不足になっている。仕事総点検交渉でも言っているが改善されないと挨拶がありました。

樋口執行委員

年末手当は三回交渉を重ねてきた結果として、3.18ヶ月で若干増となった。グループ会社については劣悪な労働条件で働かされており、これから手当の改善を含めて誠意努力交渉を重ねていく。②労働条件改善・労

働協約改定・命と権利を守る闘いでは申1号を提出している。青年部女性部についても要求をまとめ交渉を取組む。会社施策の改善要求では電気のを9月17日に提出をしてくれている。いま命の権利を守る闘いが重要で、先日保線職場で死亡事故が発生してしまつた。またP会社の死亡事故も発生して会社はルールを守る事が大事と



言っているが抜本的原因や改善がなされない。本部としても追及をしていく。③組織強化拡大について11月に地方を集めて議論をしてきた。仲間

の相談に乗り、仲間を大切にしてくわっていく。国労加入について日常的に伝えて行った結果加入に繋がったと報告がされた。エリアとしても地方に行つて努力をする。④政治闘争の強化で戦争法案が強行可決され、廃止に向けて国会包囲行動や反対集会が開催されている。毎月19日に国会セ門前行動の提起と脱原発・労働法制廃止に向けて皆さんと努力していく、また労働条件改善・分会活動の活性化・機関活動強化を課題に春闘を取組むと挨拶がされました。

高橋議長

昨年の委員以降、架線事故など大きな事故が電気関係で多発している。メンテ施策以降、仕事の仕組みが大きく変わり、平成採用者が増える中で技術継承など現場軽視について指摘をしてきた。職場からの具体的な問題を出し合いながら、交流会で申として作成し提出をしてきてい

る。この間の交渉経過からして、いつ交渉になるか判らない2009年についても申を出しながらメンテ改善提案となつてしまつたが、諦めることなく継続していきたいと思つている。今日はお互いの状況や議論をしてきた事を出し合い、今後の運動に繋げて行きたいと挨拶がありました。

各電協からの発言

【八王子】

今年の1月に定期委員会を開催し毎月の委員会や年2回の分科会を行つてきた。恒例のバーベキューレクでは組織拡大を目的に若手参加を呼びかけ10名程度の参加がありました。今ひとつ踏み込めず加入には至っていない。仕事総点検交渉では限られた時間の中では毎年同様な問題が取り上げられている。業務区分作業区分資料や検測車運行後のデータ解析現場確認等、運行後の現場対応について資料請求を行つてきた。現場では検測車データを有効活用が出来ていない実態で、交渉で支社は具体的な資料を出すと回答したが、半年が経過しても出てきていない状況であり地区本部や技セを通して要求している。メンテナンヌ施策の取決めが曖昧になる状況で本社本部間の交渉でも解決に向け取組をしてもらいたい。

職場の声をつなごう

【仙台】

郡山新幹線架線切断事故は架線が磨り減り断線になったが、以前にも検査で異常磨耗を発見し緊急取替をしてくれているが、同種事故の未然防止策を会社はしてこなかったと報告があった。震災以降、高架橋の揺れが大きくなった。また反対側にある信号扱い所でもの壁にヒビが入っていて揺れも大きくなったと報告されている。切断の原因としてパンタグラフの形状や交差している架線が無交差の仕組みでなかり、検測車データの分析力など根深い要素があり、そうした問題を申25号として8月に提出してきたが交渉はまだされていない。

4月に電力職場から36歳の平成採用者が加入した。「どんな困ったことでも一緒に考えてくれる組織だと思ひ決意しました」と加入の動機の報告がされた。

今後の拡大に向けた話し合いに二人の若手を交えて行っている。エルダー雇用職場のJRテクノサービスで夏場、車内清掃時にエアコンが使えない劣悪な環境で行われていた。所長を含め全員でJRに訴える中、エアコンの使用が認められ労働条件改善に繋がった。保線出向社員の死亡事故は痛ましく、これから個人の責

任にさせない取組が重要となっている。

【高崎】

新幹線の巨り箇所管理方法について7月に回交を行ってきた。検査方法で会社も磨耗なのか巨り検査なのか、まだはっきりと原因を掴んでいない。職場の問題についても11月に交渉を行い。メンテから13年が経過し業務区分が判らなくなっている。交渉では障検SWの取扱など4項目の他に境界作業ではカットアウトについても整理をするよう求めてきた。職場環境では女性が増える中でトイレの改善を求め会社も改善する考えを示してきた。組織拡大では20代の新採が加入した。職場の中でプライベートや業務中など色々な話をする事で繋がったと報告があり、電協としても取組を工夫して強化して行きたい。

【水戸】

若手と仕事をする中で共感もたれるが加入までは至らない状況。団体交渉をこの1年で4回ほど行ってきた。その中で常磐線二十三夜尊踏切の無遮断事故でリレー時素不良が発生し問題になった事は経年取替の周期についての考え方だった。当初、会社回答では取替経年は15年から20年で動作回数は150万回で取替、現物は18年経過していたが20年未満で問題なしと回答したが、組合か

ら平成11年度に本社から出された東京100キロ圏における保全標準で7年に改正がされていると指摘。会社もその後、認め安全会議で周知するとなり今年の8月にやっと全社員に周知がされた。事故があつて組合が申入れを行い初めて会社も気づく実態であり、技術継承も大事だが事故に対するルールを会社に継続的な説明をさせる必要性を感じた。また交渉により改善結果が全職場に伝わった事は良かった。今後の問題としては①自動車の高距離運転(約350km)②長時間の超勤③シルバークの宿直指示④高速道路が開通し原発事故付近の移動(線量が高い)⑤震災復旧工事による泊り込みでの作業などがある。

【盛岡】

今年の交流会に向けて電力・信通と分科会を開催してきた。職場の問題として電力柱の傾斜調査が9月までから当面に変更された。巨り線管理でも検測車から直轄へ説明のないままに変更された。障害関係では駅配電盤はB丁だが直轄も出動させられている。駅の低電圧も列車に影響があるとして直轄に戻したり、呼び出しがされたりとメンテ時の取決めが変更されている実態。信号の新幹線では指令から作業が一方的に中止にされたが他系統では仕事をしている所もあり指示の統一されていない。後で保線の死亡事故が原因だと判った。繁忙期の即応体制は提案されたが、シルバークについては何も無く即応体制がされた。ゴールデンウィーク時の障害対応で即応体制者を若手管理者が作業に当てようとして副所長から中止するよう指示があった。即応体制について説明がされていない。信通技では三陸鉄道との共用踏切で回路の仕組みを知らないまま復旧し三陸鉄道を止めたり踏切で2件発生したため10月10日に非常事態宣言がされ直轄工事と配線作業中止となった。新採はメセ2年で技セへ転動するため設備も熟知出来ず、それをヒューマンエラーと押付ける非常事態文章も出された。メンテの取決



2015年度役員

機関役職	氏名	地本(区)	職場名	最寄駅
議長	高橋 広	神奈川	小田原電力MC	横浜
副議長	高橋英樹	秋田	大曲信号MC	大曲
副議長	岸 三男	高崎	渋川電力MC	高崎
副議長	北嶋利則	千葉	新小岩信号MC	船橋
副議長	井上美信	東京	東京電車線技セ	新秋津
事務長	大角 浩	八王子	立川信号MC	相武台前
強電分科長	後藤寿昭	八王子	大月電力MC	塩山
弱電分科長	千葉 薫	仙台	白石信号MC	仙台
新幹線分科長	菅原清志	盛岡	盛岡信通技セ	IJR厨川
事務分科長	大森良明	東京	東京配電技セ	宇都宮
信号分科長	佐藤光昭	東京	品川信号技セ	雀宮
通信分科長	加藤英樹	東京	東京通信技セ	川崎
変電分科長	長谷部隆幸	大宮	大宮電力技セ	新白河
配電分科長	今野弘樹	千葉	千葉電力技セ	木更津
会計監査	岡部貴一	東京	東京信号技セ	蒲田
会計監査	菊島高德	神奈川	横浜信通技セ	高円寺